

北九州市立小池学園再整備基本計画

【概要版】

本基本計画は、福祉型障害児入所施設である小池学園の再整備に向けて、新たな小池学園の機能・規模等をまとめたものである。

【イメージ図】



1. 現状と課題

【施設概要】

- 開設 昭和46年
- 所在地 若松区大字小敷583番地1
- 機能 入所支援 福祉型障害児入所施設 【定員60名】
(主として知的障害児への日常の指導及び知識技能の付与を目的とする)
地域支援 短期入所、日中一時支援、外来療育指導(外来相談)

【課題】

●施設面

(1) 施設全般

現施設は、昭和46年及び昭和50年に建築された旧耐震基準の建物であり、建築後約40年が経過し、建物の老朽化が著しい。

(2) 居室

3人部屋を基本としているため、プライバシーの確保や、児童の個性、障害特性、ニーズに配慮したサービスの提供に限界がある。

●運営面

(1) 障害特性等の多様化

発達障害を併せ持つ児童や虐待を受けた児童など多様な特性を持つ児童の増加に伴い、居室内(3人部屋)での児童間のトラブルも増加傾向にある。

(2) 家庭経験の不足等

家庭生活の経験が乏しい児童や他人とのコミュニケーションに問題のある児童が増加している。

(3) 短期入所などでの対応

児童発達支援センター(ひまわり学園など)の児童が、小池学園の短期入所や日帰りショートを利用する場合、児童の障害特性等の情報は、児童発達支援センターのスタッフではなく保護者から得ることがほとんどであるため、主観的であったり、偏りがあることも多く、適切な対応が難しい場合もある。

2. 整備の基本方針

●家庭に近い生活環境と児童の特性に配慮したサービスの提供

より家庭に近い生活環境を実現するため、ユニットケア方式を導入するとともに、児童の個性や障害特性、ニーズに配慮したサービスを提供する。

●教育機関や福祉機関との連携による効果的な支援体制の構築

隣接する小池特別支援学校や相談機関である発達障害者支援センター「つばさ」西部分所との連携を促進していくとともに、児童発達支援センターの整備も想定することにより、児童や保護者に対し、ライフステージに応じた切れ目のない一貫した支援が可能になる。

●家族を含めた地域支援機能の強化

入所棟に短期入所専用床を設置するとともに、地域支援棟を新設し、その中に放課後等デイサービス専用スペースや相談室を設置するなど、家族を含めた地域支援機能を強化する。

●地域に開かれた施設づくり

地域交流スペースを新設し、児童と地域住民とのふれあいの場を設ける。また、非常災害時には、地域の障害者が避難できる福祉避難所としての役割を担う。

3. 施設配置計画

【概要】

- 計画地 若松区大字小敷583番地1
- 整備敷地面積 15,657㎡
- 延床面積 入所棟 2,440㎡
地域支援棟 633㎡
- 駐車場 30台程度
- 部門

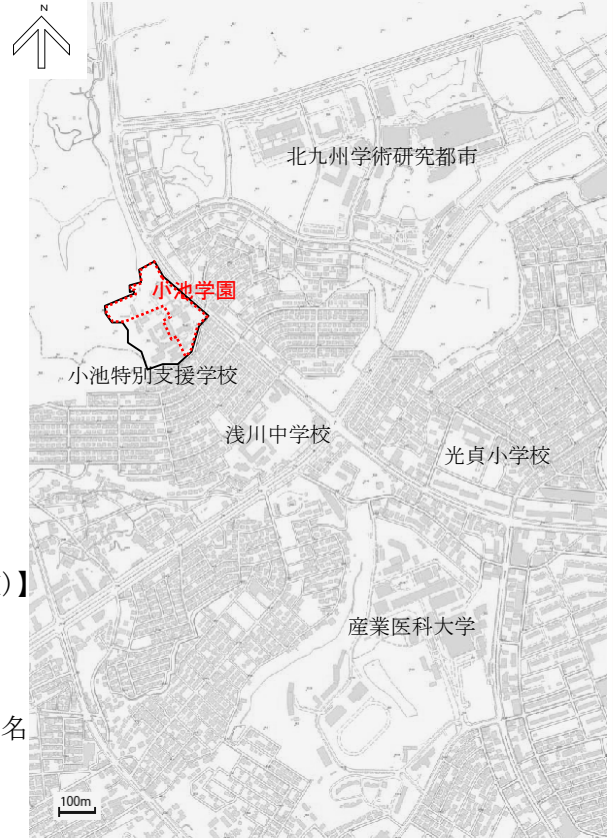
(1) 入所棟

- 1) 管理部門 ・ 事務等 ・ 給食
- 2) 入所部門【定員65名、うち5名は短期入所】
 - ・ ユニットA1棟 (男子)【定員8名(全て個室)】
 - ・ ユニットA2棟 (女子)【定員8名(全て個室)】
 - ・ ユニットB1棟 (重度男子)【定員8名(全て個室)】
 - ・ ユニットB2棟 (重度女子・重度年少児)【定員8名(全て個室)】
 - ・ 一般棟【定員33名(個室又は2人部屋)、うち5名は短期入所】

(2) 地域支援棟

- 1) 放課後等デイサービス部門【定員15名】
 - ・ 余暇支援 ・ 療育支援
- 2) 外来相談部門

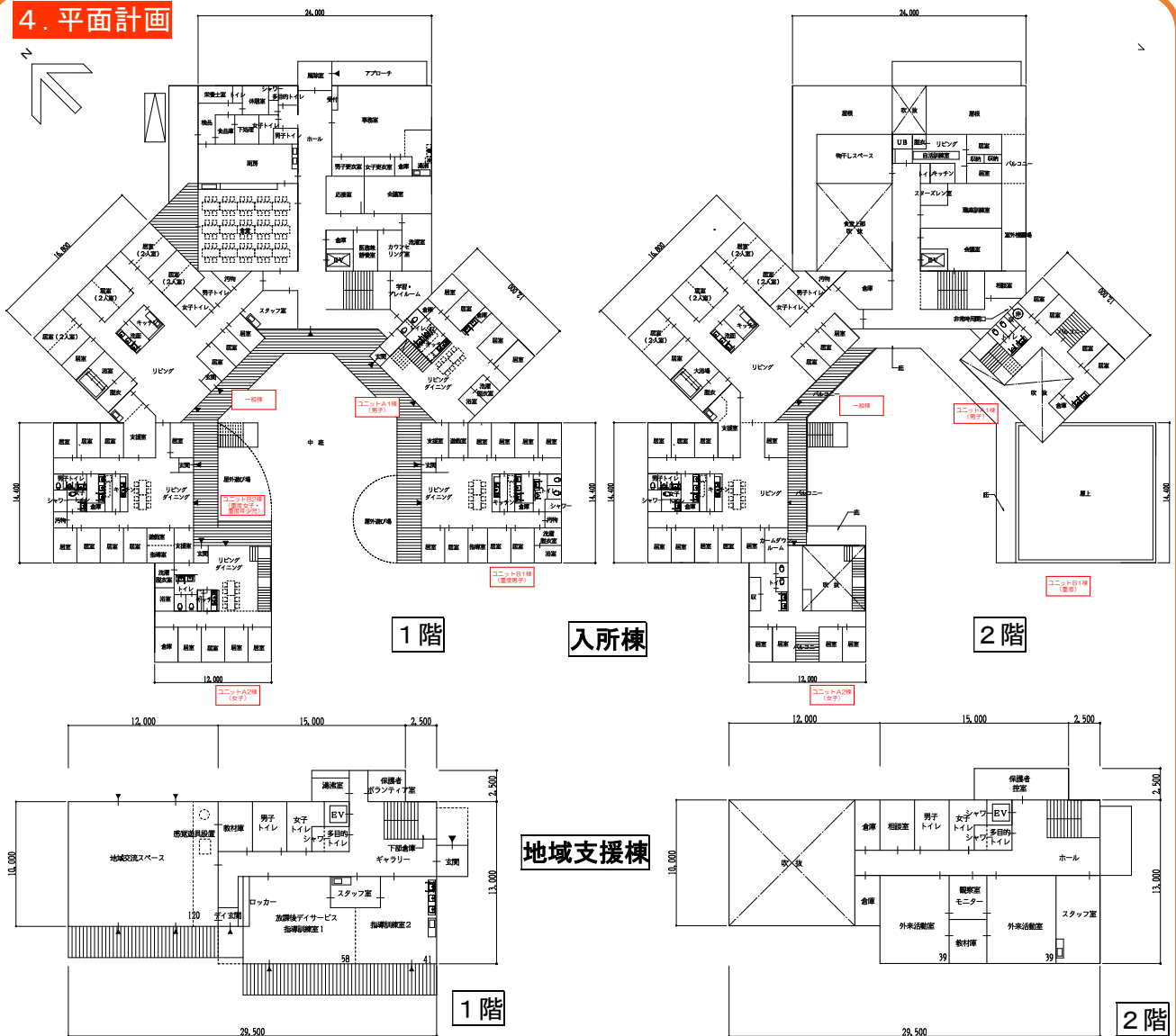
【付近見取図】



【配置計画図】



4. 平面計画



5. 概算整備費用

約9億円

※工事費・設計監理費

6. 整備手法

本市では、市立障害福祉施設については、条件が整い次第、社会福祉法人に譲渡することとしている。これを踏まえ、小池学園については、基本計画に基づく施設の安定的な運営及び建替えの確実な実施の観点から、現指定管理者である社会福祉法人北九州市福祉事業団（以下、「市福祉事業団」という。）に譲渡することを想定している。このため、今後、譲渡を前提とした上で、市福祉事業団が社会福祉施設等施設整備費国庫補助金の活用を念頭に設計、工事等を行うこととし、市はこれを支援する。

7. 整備スケジュール

小池学園の建替え工事は、建替え場所にある旧成人部男子棟（現在生活介護事業所が入居）や現地域生活訓練棟を市が解体した後の着工となる。このため、これらの建物の解体工事中に市福祉事業団が基本・実施設計を行い、順調に進めば、平成27年度の工事着工が想定される。